

発売直前

ヒロイン & ストーリーを最終総まとめ!!

# Memories Off

メモリーズオフ

## # とぎれたフィルム

**PlayStation 2**  
**Memories Off #5**  
 とぎれたフィルム

**DATA** 開発：KID 価格：9800円(税込) / 通常版：7140円(税込) 発売日：10月27日発売予定 初回限定版特典：書き下ろしシナリオによる「SPECIALドラマCD」、オリジナルファンブック「SPECIAL MOOK」(単巻外巻)

**STAFF** キャラクターデザイン：廣水輝之、松尾ゆきひろ  
**CAST** 日名あすか：野川さくら 仙堂麻尋：井ノ上まこと 仙堂春人：桑谷夏子 早瀬美海：名塚香織 麻尋：佐久間レイ 河合春人：森久保太郎 小津修司：岸尾大輔 日名雄介：櫻井孝宏 白石涼子：白石涼子 相模穂香：関島淳司

<http://www.kid-game.co.jp/>

映画サークルを舞台にした少年少女たちの恋や葛藤を、時に甘く、時にミステリアスに描き出すラブ&サスペンス『Memories Off #5』。「メモオフ」シリーズの最新作にして、シリーズ最大級のドラマが、いよいよ幕を開けるぞ。今回は目前に迫った発売日を前に、全ヒロインのストーリーの見どころや注目エピソードを先行チェック。あわせて、美しい新着イベントビジュアルもまとめて公開しよう。今月も独占情報連載で、ヒロインのまだ見ぬ魅力と物語の謎に、どこよりも早く迫っていこう!

『Memories Off #5』  
**WORLD&SYSTEM**

主人公は千羽谷大学2年生の河合春人。映画監督になる夢を持っていた春人だったが、1年前にパートナーの白名雄介が事故死して以来、夢を投げ出している。CUM研という映画サークルで、毎日目標もなく過ごしている春人の前に、ある日、雄介を知る少女・仙堂麻尋が出現。映画を作ろうと唐突に呼びかけてくる麻尋によって、春人たちCUM研メンバーの間には混乱が発生する。麻尋が隠す秘密と春人の夢をめくり、波乱の物語は幕を開ける。システムは、選択肢によって物語が各ヒロインのシナリオに分岐する、オーソドックスな形式のAVGだ。



愛と悲しみのスクリーンに  
 5つの想いが映し出される……

単行本化も決定!  
 連載プレストーリー  
 『メモオフ#5』第4話は  
**P.179**  
 に掲載!!

独占  
CATCH!

# 全ヒロインのストーリー判明! 新着CGとあわせて大公開!!



▲今は明るく振る舞っているあすかも、1年前、兄を亡くした直後はショックで話すこともできない状態だった。彼女はその暗闇から、いかにして立ち直ったのだろうか。

HEROINE No.01

## 目名あすか

ひな あすか

### 恋に恋する積極派乙女

春人たちの母校である、綾園学院高校の3年生。亡くなった雄介の妹であり、CUM研メンバーとは旧知の仲。約1年前から、サークルの部屋に遊びに来ようになり、今やすっかりCUM研の一員としてかわいがられている。あすかが遊びに来る目的は、片想いしている春人に会うため。恋心を隠さない無邪気で積極的な彼女に、春人はいつもタジタジだ。そんな彼女だが、なぜか高校やバイト先に友達が少ない。

### DATA

- ◆年齢:17歳
- ◆誕生日:8月31日
- ◆血液型:B型
- ◆身長:158cm ◆体重:45kg
- ◆3サイズ:B81 W56 H82cm
- ◆好きなもの:少女マンガ、カラオケ、格闘ゲーム
- ◆嫌いなもの:勉強、料理



極上のスマイルの目  
キミだけにサービスマイル♡

▶「バーガーワック」でバイト中のあすかを、遠くからこっそりノゾキ見。お店の看板娘としてテキパキ働く姿に、春人も思わずドキッと……? ちょっと頼りなさげなあすかだって、やる時はやるのです!

### ストーリーの見どころは? あすか編

#### ゲーム開始後10分で早くも波乱模様 ラブもサスペンスもここに集約!

毎日のようにサークルに顔を出し、春人へのラブアピールを欠かさないあすか。春人はあすかの想いに気づいていたが、死んだ雄介や、あすかに片想いしているCUM研メンバーの小津修司に気を遣い、いつもはぐらかしていた。そのため、同じファーストフード店「バーガーワック」でアルバイトをすることになっても、2人の仲はいっこうに進展しない。そんな時、春人たちの前に、雄介の事故に関わったとされる仙堂麻尋が現れる。あすかにとって、忘れてかっていた兄の死を思い出させる麻尋は、嫌な存在でしかない。しかもあすかは、麻尋の正体が、雄介を殺した殺人犯かもしれないと思っているらしい……!? あすかと麻尋の対立と、そのはざまに立たされる春人。3人の間に愛情や嫉妬、恐怖といったさまざまな感情が行き交う、緊迫したドラマから目が離せない!



### エピソード CHECK

◀CUM研で開催した春人の誕生日パーティーで、あすかが大ハシヤギ。麻尋が現れるまでは、CUM研はずっと平和だった……。

### エピソード CHECK

▶バイトの帰り道、春人はあすかを家まで送る。その別れ際、あすかから、麻尋が殺人犯かもしれないという告白をされる。



あすか

「わたしは、先輩に、あの人はあんまり話してほしくないな……」

### エピソード CHECK

▲春人が麻尋と会うことを、不安そうな顔で止めようとするあすか。あすかの胸にあるのは、麻尋に対する恐怖心なのか、それとも……嫉妬心?



HEROINE No.02

# 仙堂麻尋

せんどう まひろ

## 事件のカギを握る謎多き少女

1年前、雄介の事故死した現場にいた少女。雄介との関係は不明だが、彼の書き残した映画台本を持ってCUM研に現れる。誰にでも突っかかっていく勝ち気な性格だが、内面は意外と涙もろい。よく忘れ物をするように、けっこうヌケたところがある。

### DATA

- ◆年齢: 19歳 ◆誕生日: 12月19日 ◆血液型: A型
- ◆身長: 160cm ◆体重: 46kg ◆3サイズ: B86 W58 H86cm
- ◆好きなもの: 海を眺めること、自転車、モデルのカリン
- ◆嫌いなもの: 人を待たせること

▼映画作りの参考にする、という口実で、春人は麻尋を映画に誘う。体調が悪そうなのに、ちゃんとつき合ってくれた麻尋に、春人は申し訳ない気分になる。感謝の気持ちを込めて、そっと彼女の手を握ると……。

▶雄介が死の直前、春人に預けていた1本のビデオテープ。そこに映っていたのは、まだ髪が長かったころの麻尋だった。映像の中の麻尋がつぶやいた「殺す」という単語が、春人の耳にこびりついて離れない。

ストーリーの見どころは? **麻尋編**

## 疑惑とすれ違いの果てに……

麻尋は雄介の台本をもとにCUM研に映画を作らせようとするが、辛い事故を思い出したくない春人たちは拒絶する。ところが麻尋は、その後も説得のため、毎日CUM研を訪れる。麻尋が雄介を殺した犯人だと推測した春人は、彼女へ激しい怒りをぶつけるようになる……。麻尋は本当に殺人犯なのか? 雄介との関係はいつたい? 多くの謎が秘められた、本作の中心となるシナリオだ。



**エピソード CHECK**

◀自分のせいだ雄介が死んだという、麻尋の告白。それを聞いて理性を失った春人は、怒りに身を任せて、麻尋をのしる。もはや、いっしょに映画を作ることなど不可能?



# 2人の絆……

▶可憐な服でイメチェンした香月のまぶしさに、春人も思わず緊張。パスタに好物のカレーをかけてるのは、香月らしいけど……。



# 女の子モードで 召し上がって♥



◀綾国学院時代からの腐れ縁だった4人組。雄介を中心に映画作りの夢に燃えていた、香月にとっても忘れがたい青春の日々だ。

HEROINE No.03

# 観島香月

みしま かつき

ストーリーの見どころは? **香月編**

## 夢を支える香月のせつないドラマ

麻尋が提案した映画作りの企画を、かたくなに拒否する春人。しかし、香月はなぜか、麻尋の提案を受け入れるように春人を促す。春人が映画作りを投げ出してから約1年。香月は夢を諦めた彼のことをずっと心配していた。彼女は麻尋を利用してでも、春人にもう一度映画を作ってほしかったのだ。香月のけなげな想いと、彼女がどんどん女の子らしくなっていく過程に注目だぞ。

## CUM研をまとめる頼れるアネゴ

CUM研の一員で、春人や雄介、修司とは高校時代から親友同士。クールな姉御肌で、サークル内では一番のしっかり者だ。感動的な映画を見るとすぐに泣く、涙もろい面もある。動きやすいペンツルックが多いが、時々スカートをはくことも……!?

### DATA

- ◆年齢: 19歳 ◆誕生日: 11月29日 ◆血液型: A型
- ◆身長: 161cm ◆体重: 43kg ◆3サイズ: B80 W56 H83cm
- ◆好きなもの: 映画、カレー味の食べ物
- ◆嫌いなもの: わざび



**エピソード CHECK**

◀香月が新入生・木瀬歩をCUM研に勧誘してくる。これも、春人の気持ちを映画に向かわせる、香月の策略だ。





HEROINE No.04

# 早蕨美海

さわらび みうみ

映画好きの(?)おとなしい従姉妹

綾園学院高校3年で、あすかの数少ない親友。春人とは従姉妹同士だが、これまであまり顔を会わせたことはない。記憶力抜群で成績優秀の優等生だが、人見知りか激しいという弱点アリ。それでも、映画の話をする時だけは意外と積極的なのだ。

DATA

- ◆年齢:17歳 ◆誕生日:6月6日 ◆血液型:A型
- ◆身長:150cm ◆体重:40kg ◆3サイズ:B77 W54 H81cm
- ◆好きなもの:恋愛ドラマ、おにぎり、深夜ラジオ
- ◆嫌いなもの:戦争映画、ネギチャーシューメン

ストーリーの見どころは? 美海編

### 優等生との不思議な師弟関係

叔母に頼まれ、美海の家家庭教師を始めることになった春人だが、美海が人見知りすることや、指導がいらないほど優秀なことからうまくいかない。そのため家庭教師をすぐに止めてしまおうと考えた春人は、何気なく美海に映画の話をする。すると、美海はなぜか目を輝かせて話に乗ってくる……。内気な彼女が見せる映画への強い想いと意外な才能が、春人の心に何をもたらすのか!?

エピソード CHECK

▶家庭教師の日、勉強そっちのけで映画の話題で盛り上がる2人。その帰り際、家庭教師をやめる話をしようとした春人を、美海が必死で制する。口数は少ないけど、どうやら美海は春人を気に入ったみたい。



▶美海が書いたオリジナルの物語を読んだ春人は、そのおもしろさに仰天。恥ずかしがった美海に、すぐ取り上げられちゃうけど……。

## 乙女のジュミンは非公開!?



## 心酔わせる大人の微笑……

▶バイト後に瑞穂からバーに誘われて、ついつい飲みすぎてしまう春人。オトナのムードと甘いカクテル、瑞穂の色香に酔わされて、春人は意識も理性も吹っ飛んでしまう……。

HEROINE No.05

# 雨宮瑞穂

あまみや みずほ

ストーリーの見どころは? 瑞穂編

### オトナの秘密をもっと知りたい!

あすかに誘われて“バーガーワック”のバイトを始めた春人は、瑞穂の指導を受けて厨房で奮闘する。そこでは毎日、耳に息を吹きかけられたり、怪しいギャグを言われたり、急に冷たくされたりという、瑞穂のおかしな行動に振り回される。春人はしだいに、考えることが読めない瑞穂のミステリアスな魅力に惹かれていく……。お色気の下に隠された本当の瑞穂の姿を知ってほしい!

### 気になる存在のミステリアス・レディー

春人やあすかがバイトする“バーガーワック”の社員マネージャー。仕事はできるけど遅刻の常習犯、落ち着いてるようで気まぐれというように、つかみどころがない女性だ。不思議な雰囲気と抜群のスタイルで、春人を惑わせる魔性のお姉様!?

DATA

- ◆年齢:24歳 ◆誕生日:6月30日 ◆血液型:AB型
- ◆身長:164cm ◆体重:48kg ◆3サイズ:B90 W58 H86cm
- ◆好きなもの:料理すること、お酒を飲むこと
- ◆嫌いなもの:トマト、ゴキブリ



エピソード CHECK

▶事故で店内の大型冷凍庫に閉じ込められた春人を、近くにいる瑞穂が救出する。彼女は春人の冷えきった体に、自分の体を密着させて温めてくれるのだ。



あ

すかの

想

い

止

ま

ら

ない

ついに

動き出した

麻尋

書き下ろし連載小説 第4回

「相合い傘と告白と探偵のまねごと」

【メモリーズオフ#5】オフィシャルプレストーリー

Memories Off #5  
~Promise & Wish~

◆STORY:林 直孝 ◆ILLUSTRATION:興水隆之、松尾ゆきひろ ◆CG-WORK:相澤こたろー

「メモオフ#5」に登場する2人の少女を主人公にした連載ノベルも、もうすぐクライマックス！ 稲穂信という頼れる(?)仲間を得て、麻尋は春人たちのすぐそばまでたどり着く。そのころあすかは、一世一代の恋の大勝負に挑んで……。

# もしかしたらもしかして、 今日は運命の日になるかもっ

## CUT 1 日名あすか

ここ何日か、ずっと雨。  
ジメジメして、歩いているだけでうすうすと汗ばんでくる。制服のブラウスが肌にとわりついて、げっこう気持ち悪い。  
そろそろ衣替えだなあ。  
そんなことを考えながら、いつものようにCUM研の部室のドアを勢いよく開いた。  
「お疲れさまでーす」 日名あすかが来ましたよー」  
元気がよく挨拶してから、首を傾げた。  
「あれ？ ハル先輩ひとり？」  
部室の中には、ハル先輩しかいなかった。ひとりだけでビデオを見てたらしく、だらしなくイスに座ったままわたしの方に手を振った。  
「ああ、香月も修司も今日は来てないぞ」  
CUM研は基本的に大した活動はしてないから、部室に来るのもサボるのも自由みたい。  
「へえ。じゃあわたしとハル先輩と、ふたりきりですね？」  
自分で言う前から、その事実の重大さにハッとする。これは……チャンスでは？  
「相手に、気持ちはちゃんと伝えた？ はっきり伝えた方がいいわよ。後悔する前に、ね」  
2日前のバイトの面接で雨宮さんに言われた言葉が、急に頭の中に響いた。  
気持ちを……伝える……。  
って、バカバカ！ まだそんな段階じゃないよお。もっともっとアピールして、もっともっと仲良くなってからじゃないと……。  
「人生最良の時っていうのは、本人の気付かぬまに過ぎていて、後になってから初めて気付くものだから」

う……。どうしよう……。  
雨宮さんにあんなこと言われたせいで、いつも以上にハル先輩のこと意識しちゃう。  
「今日、昼から雨が降り出したぞ？ オレ、傘持ってくるの忘れてさ。香月が修司に入れてもらおうと思ったのに、あいづらこういう日になってサボりやがる」  
舞い上がってるわたしに気付かず、ハル先輩はブツクサ言っていた。  
「しょうがないからここで時間潰してたけど、雨は全然やみそうにないし」  
恨めしそうに、窓の外の灰色の空を見上げている。わたしは、ゴクリと息を呑んだ。  
ハル先輩と相合傘……したいかも。  
「ね、ねえねえ。あの、わたし……わたしっ……」  
言え。言っちゃえ！ 傘に入れてあげるから一緒に帰ろうって、言うのだ！  
「あすか、どうした？」  
ハル先輩が不思議そうにわたしを見てる。わたしは棚に並んでいる本を眺めるフリをして、慌てて先輩から顔を隠した。  
「あ、いえ……なんでも、ないです……」  
ああん、ダメ……。今日のわたし、おかしいかも。全然いつもみたいにはできない。意識しまくり。  
自分のダメダメっぷりにヘコんでいると、  
「お、そうだ」  
ハル先輩が、急に名案を思いついたかのように立ち上がった。  
「あすか、お前の傘に入れてくれよ。家も同じ方向だから、別にいいだろ？」  
「……ええっ!？」  
これってなに？ 運命？ 神様からのご褒美？ まさかこんなに望んだ通りに事が運ぶなんて。ありがとう神様仏様!! 今日だけはあなたのこと信じちゃう！ なんまんだぶなんまんだぶアー

メン!  
「なんだよ、イヤなのか？」  
わたしはブンブンと首を振った。  
「イヤじゃないです！ 大歓迎です！ 一緒に帰りましょう！」  
もしかしたらもしかして、今日は運命の日になるかもっ……なんて思っ、わたしはこっそり胸をときめかせた。

## CUT 2 仙堂麻尋

なんで、こんな簡単なことが思い浮かばなかったんだらう。  
あの事故のショックが強すぎて、この1ヶ月近い間、考えることを脳ミソが拒否していたのかな……。  
千羽谷大学のサークル棟は、静かに降り続ける雨の中に建っていた。それを前にして、私はこれまでの自分の無策っぷりを思い知らされていた。  
そう、本当に簡単なことだったのだ。  
私は雄介くんから、断片的に彼の仲間たちの話を聞いていた。雄介くんたちはみんな千羽谷大学に通っていて、そこで映画サークルに所属している、と。  
そのことを稲穂さんに話したら、こともなげに「じゃあ大学に直接乗り込めばいい」と言われた。ということで今こうして私は、サークルの部室が集まっているというサークル棟の前に立っている。  
わざわざ日暮荘がどうたらこうたらと必死になっていたのは、完全に無駄な努力だったわけだ。  
トホホ。  
……いや、そうでもないか。私は隣にたたずむ「友達」にニヤリと笑いかけた。  
「ここまでたどり着けたのは、稲穂さんのおかげだね」  
「そうさそうさ」  
稲穂さんは偉そうに胸を張る。  
「でも、稲穂さん、っていう呼び方はいただけないな」  
「どういうこと？」  
「オレ、名前と呼ばれる方が好きなんだよね」  
「じゃあ……信……さん？」  
「違う違う。もっとフレンドリーに行こうぜ。歳だってほとんど同じなんだから」  
「信……くん？」  
彼はようやく満足そうにうなずいた。  
「オレも君のことは、これから麻尋ちゃんと呼ば

せてもらうから」  
相変わらず馴れ馴れしい人。  
「ちゃん……なんてなんかイヤ。身体がむずがゆくなる。呼び捨てでいいよ」  
「ほう……」  
なぜか、稲穂さん……じゃなくて、信くんは目を細めて私を見た。  
「なによ？」  
「別に。じゃあ麻尋って呼ばせてもらう」  
信くんは肩をすくめると、改めてサークル棟の方に目を向けた。私もそれに倣う。  
サークル棟は、かなりボロボロの校舎だ。外から見る限り、まるでお化け屋敷じゃないかと思えるほどの怪しい雰囲気を醸し出している。人の気配もあまりしない。ホントに人がいるのかどうか不安になる。  
でも間違いない、この中に私が探している人たちはいるはず……よね……？  
「ねえ、信くん。ホントに見つかるかな？」  
「心配するな。オレを誰だと思ってる」  
「誰なの？」  
「稲穂信……探偵だっ！」  
「あっそ。バカなこと言ってないで、ほら、そろそろ中に入ろう」  
「ああっ、冷たいっ。冬の洋式便所の便座ぐらい冷たいぞっ」  
私は、大げさに天を仰ぐ信くんを置き去りにして、サークル棟の入り口に向かおうとした。そこで、それまでなかったふたつの人影を視界の中にとらえた。  
今のバカな話の間にサークル棟から出てきたと思われる女の子が、ちょうど赤い傘を差したところだった。そして後から少し遅れて出てきた男の子と肩を寄せ合うと、そのまま仲良く相合傘で校門の方へと歩いていった。  
顔はよく見えなかったけど、私は妙な違和感を覚えて、彼らの背中から目が離せなくなった。  
「どうした？」  
隣に追いついてきた信くんが首を傾げたので、私は遠ざかっていくカップルの方を訝でしゃくった。  
「あの女の子が着てる服って……綾園学院の制服だよな？」  
信くんは思わせぶりに考え込むと、すぐにニヤリとしてパチンと指を鳴らした。  
「分かったぞ。あれはコスプレサークルの子なんだ！」  
「ふーん。そうなんだ」



「ああっ、冷たいっ。サガルマータの雪解け水ぐらい冷たいぞっ」  
「え？ 今のって冗談だったの？」  
本気にしちゃったじゃない。信くんの言うことはあまり真に受けない方がいいかも。  
「もうどうでもいいわ。いい加減、中に入りましょ」  
ため息をつきつつ、私は改めてサークル棟の入り口に向かった。

## CUT 3 日名あすか

「傘、オレが持つてやるよ」  
藍ヶ丘の駅を出たところで、ハル先輩はひよい

つとわたしの手から傘を取った。そんなさりげない優しさに、わたしの心はポツとあったかくなる。  
すぐ隣に、ハル先輩がいる。ひとつの傘の下で、肩が触れ合いそうなくらい身を寄せ合って、相合傘。  
頭ひとつぶぐらい高い位置にあるハル先輩の横顔をそっと窺ってみた。まっすぐ前を見ていたハル先輩が、わたしの視線に気付いてこっちを向いた。  
「なんだよ？」  
「な、なんでもないですっ。あはは」  
慌てて顔を伏せ、必死で愛想笑い。でも胸の中は、さっきからずっとドキドキしっぱなしだよ。  
もうすぐ日が暮れそうな時間。駅からわたした

## Memories Off #5 Promise & Wish

### 前回までのあらすじ 麻尋は死んだ雄介と映画を作る約束をしていた!!

時は、ゲーム本編から約1年前。高校2年生の日名あすかは、少し前に兄の雄介を事故で亡くしていた。沈み込んでいたあすかだが、兄の親友・河合春人の優しさに触れ、春人に恋するようになる。けれども、兄の死については、事故でなく「セントウマヒロ」という女に殺されたのだと母親から聞かされ、心に不安を残しているのだ。一方、雄介を殺したとされる仙堂麻尋は、日暮荘というアパートの場所を探していた。彼

女は、バイト先の同僚である稲穂信が、日暮荘の住人だと知る。デートに行こうと信をだまし、場所を聞き出すとした麻尋だが、策略に気づいた信に突き放される。自分の卑劣さを悔い、「死んだ友人との約束を守るために日暮荘の場所を知りたい」と告白した麻尋。彼女は、雄介と映画を作る約束をしており、彼の仲間たちと会うために日暮荘を探していたのだ。こうして麻尋は信と友達になり、彼の協力を得ることに……。

# と、いうわけでっ! 相合い傘で告白大作戦

ちの家に向かう道には、人通りがほとんどなかった。空は相変わらず雨雲に覆われていて、雨のスクリーンが世界をぼんやりとしたものに変えている。こうして歩いていると、世界にはわたしとハル先輩しかいないみたい。

なんだか——  
なんだか、今なら思い切って告白できちゃいそうなのがしてきた……。  
わたしはコクリとのどを鳴らして、覚悟を決めた。ここまで来るまでの電車の中で必死に考えた、名付けて「相合い傘で告白大作戦」を執行しよう……!

今回は作戦その1〜その4まで用意してある。少女マンガみたいな甘酸っぱいノリで順に実行していけば、あら不思議! 家につく頃にはわたしとハル先輩は恋人同士なのだー、テヘへ。

と、いうわけでっ!  
相合い傘で告白大作戦その1。  
思わせない会話で告白の前フリをしちゃおう!  
「ねえねえ、ハル先輩って……好きな人、いるんですか?」

声が上がると、ハル先輩はギョッとした顔になった。「は? なんで?」  
「聞きたいから」  
「別にそんなのいねえよ」  
「いねえ……、それってつまり、わたしのこともなんとも思っていないってことなのかな。なんだかフクザツ……」

「じゃあ、どんな人がタイプ?」  
「なんでそれをお前に言わなくちゃならないんだ」  
「いいじゃないですか。教えてよお」  
「ぐ……こういう話題は苦手なんだよな」

ハル先輩ってば、本気で困ってるみたい。「そういうお前はどんなヤツが好きなんだよ」「わたしはですね、普段はぶきっちょでちょっと冷たい感じがするんだけど、実はすごく優しい人が好きです」

って言うか、そのまんまハル先輩のことなんだけど……このサインに気付いてくれるかな? 「ふ〜ん。そんな映画の登場人物みたいなヤツ、実際にいるとは思えないけどな」  
……気付いてないし。  
ダメだ、ハル先輩ってかなり鈍感なんだってこと、忘れてた。こんな遠回しな方法じゃ、いつまで経っても告白なんてできないや。  
作戦変更。

相合い傘で告白大作戦その2。  
相合い傘をしていけば、当然ながらお互いの肩とか手がぶつかっちゃうよね。  
特に手。手であることが重要なのだ。肩だと服越しだからドキドキ度は弱いけど、手はじかに肌と肌が触れ合うもん。

触れ合ったときにわたしが「あ……」なんてため息をもらしちゃうたりすれば、鈍感なハル先輩だって少しは意識するはず。  
ただ、これをうまく実行するにはひとつ困った問題があった……。  
わたしはハル先輩の右側を歩いている。で、ハル先輩の右手は、しっかりと傘を握りしめていた。傘を持ってから手はわたしの顔のすぐ横あたりにある。  
これじゃ、偶然を装って手と手を触れ合わせるなんてできないよ。  
どうしよう……どうしたらいい……?  
「あの、ハル先輩。やっぱり傘はわたしが持たます」

「別にいいって」  
「持たたいんです」  
「オレの方が臂が細いんだよ。だからお前が持つと、傘の位置が低くて頭に当たるんだ」  
「う……」  
「って、あれ? よく見ると、わたしとは反対側、つまりハル先輩の左肩がやけに濡れていた」  
「そっちの肩、濡れてますよ?」  
「ん? ああ、これはまあ、なんて言うか……死んだらあちゃんの言いつけなんだ」  
「へ?」

「男たるもの、左肩は常に濡らしておかなければならない。それでこそ文字通り、水も滴るいい男なのだ」ってな  
ちっとも意味が分からない。  
もしかして、傘がそんなに大きくなくて、ハル先輩の身体がはみ出しちゃってるのかも。  
でもそれならわたしだってはみ出しちゃうはず。なのにわたしは全然濡れてない。  
ということは……?

それがなにを意味するのか気付いて、またドキドキしてきた。  
ハル先輩、優しいね……。  
すごく嬉しくて、わたしは少しだけハル先輩の方に寄りかかろうとした。  
そしたら、傘を持つハル先輩の手の甲に、ちょうどわたしのほっぺが触れてしまった。  
「あ……」  
慌てて飛び退く。こんな予定になかった……  
よりもって、手じゃなくてほっぺが触れちゃった……どうしよう……!?

「おい、どうしたんだよ? 顔が赤いぞ。熱でもあるんじゃないか?」  
ハル先輩が、わたしの顔を心配そうにのぞき込

んでくる。  
「まっ……そんなに見つめないで……恥ずかしいっ」  
パニックになって、わたしはうつむいた。  
すると、今度はわたしのおでこに、ひんやりとしたなにかが触れた。  
「きゃっ!?!」  
ハル先輩の手が、わたしのおでこに添えられている。

「ちょっと熱いな。風邪引いたか?」  
「……あ……え……と……」  
びっくりして、金縛りにあったみたいに動けなくなって、ドキドキはどんどん強くなってきて。  
だけど、なんだかすごく幸せな気持ち。好きな人に触られるのが、こんなに嬉しいことだったなんて……。

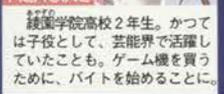
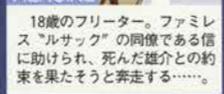
もっと触れ合いたい。髪とか撫でてほしい。手を握りたい。  
わたしはハル先輩の目をジッと見つめた。  
高まる気持ちを、抑えきれない。作戦とか段取りとか、なにもかも頭の中から吹っ飛んじやったけど。でも——  
今なら……今なら言えるかも……。  
「あの、ハル先輩……」  
「なんだよ?」  
のどがカラカラになっている。怖い。緊張する。  
ダメ……心臓が破裂しそう!  
わたしはギョッと目を閉じた。  
「わたし……わたしは、ハル先輩のことが……す、好き——」

勇気を振り絞ったわたしの告白は、車のクラクションの音に遮られた。  
直後に、勢よく水の跳ねる音。  
「どわあっ!」  
「え? え?」

なにが起きたのかさっぱり分からなくて目を開いたら、目の前のハル先輩が全身ビショ濡れになっていた。  
「うわっ、ハル先輩、どうしたの!?!」  
「ぐ……今、通り過ぎた車が……盛大に水を跳ねていきやがった……」  
よく見ると、わたしたちが立っているすぐ横には大きな水たまりがあった。  
「だ、大丈夫ですか?」  
「大丈夫じゃない。ってかお前、今なんて言った? なんかに言っただろ。オレのことがなんだって?」  
「聞いてなかったんですか?」  
「こんなに水ぶっかけられて、聞こえるわけないだろ」

探偵小説みたいなの  
ノリになつてきたね

そ、そんな……。  
全身の力が抜けて、わたしはがっくりとうなだれた。  
「やけに深刻そうだったけど、なんだったんだ? ほら、聞いてやるから言えって」  
「もう……いいです」  
「いいのか?」  
「よくないけど、いいです……」  
神様様のパカ! アホ!  
こんなオチはあんまりだよ……。  
「うわー、今のオレ、かなり悲惨……」  
ハル先輩は、ビショビショになった自分の姿を見て、うんざりした顔をしている。

<b>主要登場人物</b> CHARACTERS	 <b>日名あすか</b> HEROINE 綾瀬学院高校2年生。かつては子役として、芸能界で活躍していたことも。ゲーム機を買うために、バイトを始めることに。	 <b>仙堂麻尋</b> HEROINE 18歳のフリーター。ファミレス「ルサク」の同僚である信介に助けられ、死んだ雄介との約束を果たそうと奔走する……。	 <b>観島香月</b> みしまかづき 千羽谷大学1年生。映画サークル「CUM研」の紅点で、カレが好き。	 <b>両宮瑞穂</b> あまみやみずほ あすかがバイトすることになった「パイガウ」のマネージャー。	 <b>河台春人</b> かわいはると CUM研に所属する1年生。あすかの憧れの人で、ゲーム本編の主人公だ。
	 <b>稲穂信</b> いなほしん 麻尋の友達。彼女が春人たちに会えるように、知恵を貸してくれる。	 <b>小津修司</b> おつしゅうじ 春人たちの同級生。あすかにベタ惚れしている。	 <b>日名雄介</b> ひなゆうすけ あすかの兄で、春人たちの仲間で、物語の事故死をした。		



# 赤……血の

雨雲を見上げたまま、立ち尽くしている。どうしたんだろう？ すごく寂しそう。

「ハル……先輩？」

「中学の頃、雄介と一緒に見た映画なんだ。わたしはハッと息を呑んだ。」「それで、映画を見てから、今みたいにふたりで雨に打たれてふざけ合ってた……」

「……………」

「なあ、あすか……」

ポツリとつぶやいたハル先輩の声は——とても弱々しくて——

「雄介は……なんで死んだのかな……」

「あ……………」

「なんで、死ななくちゃいけなかったのかな……」

わたしはなにとも言えなくなって、たまたま目をそらした。

兄さんが死んだのは事故。そう聞いていた。それなのに——

雨の音が急激に遠くなって。代わりに、以前聞いたママの金切り声が耳の奥に響く。

——殺されたのよっ！

わたしは両手で耳を塞いだ。持っていた傘が落ちて、その赤い色が視界に飛び込んでくる。

赤……血の色……殺された……。

「聞きたくないっ！」

「あすか？」

「聞きたくないっ！ イヤッ！」

目を閉じて、しゃがみこんだ。何度も何度も、かぶりを振った。

落ちてくる雨はちっともあたたかなくて。凍えるような寒さにわたしは身震いした……。

## CUT 4 仙堂麻尋

「カワイ、ハルト……ねえ。うちのサークルにはそんな名前の人はいないよ」

返ってきた答えに、私と信くんは同時に深いため息をついた。

人捜しは、予想以上に難航していた。サークル棟に入って最初に見かけた人に、何気なく「映研の部室はどこですか？」と聞いたところからすでに暗雲が立ちこめていた。

その人の答えは「映研って、どの映研？」という予期しないもので、そこで初めて私たちは、この大学には映研がいくつも存在していることを知った。

そしてその中でも特に会員数が多いサークルを3つ回ってみて、わざわざ名簿まで調べてもらっ

# 色……殺された……。

た結果としての“成果ゼロ”は、気分を減入させるのにじゅうぶんだった。

「丁寧に礼を言っておいて、映画サークル“シネマ会”の部室を出る。私も信くんも、さすがにこの段階になると無口になっていた。互いに途方に暮れて、がっくり肩を落とす。

私は服の胸元をつまんでバタバタとおおぎ、湿気のせいで汗ばんだ胸元に空気を送った。そして改めて、サークル棟の長い廊下の先に目をこらす。廊下はかなり薄暗い。日が暮れているのに、照明がほとんどついてないのだ。かろうじて、階段の踊り場の上にある蛍光灯だけが弱々しい光を放っているだけ。

……暗い場所は、嫌い。イヤなことを思い出しちゃうから。私は自分の腕を抱きしめた。

「ホント、陰気な校舎ね……」

「オレたちの今の気分みたいだな」

唇口を叩く信くんを瞬時にらみつけた。

「今日はもう遅いから、残りのサークルを訪ねるのはまた明日にしましょ。これ以上、ここにいたくないの」

それだけ言って、踊り場の方へ歩き出そうとした。

「あっ……？ もしかして怖いのか？」

「そ、そんなことないっ！ ただ埃っぽくて目が痛いだけ」

「なるほどねえ」

薄暗い中でも、信くんがニヤニヤしているのが分かった。

「なによ？ ケンカ売ってる？」

「別に——」

私が舌打ちしたとき、いきなり背後の廊下で“ガタンッ！”と物音が響いた。

「きゃあっ！」

びくくりして、文字通り飛び上がり、そのまま信くんの腕にしがみついた。

「な、なに、今の音？」

「大げさだな。ベニア板が当たったんだよ」

「……あ、そう」

「だははは。さっきも思ったけど、麻尋ってけっこう無防備なヤツだな」

「……う、うるさい」

慌てて信くんから離れ、今度こそ早足で踊り場に向かう。

ところが「待た！」と呼び止められた。

「なに？ まだからかうつもり？」

「そうじゃない。今後のことで相談がある」

今後のこと、ね。

実際のところ、人捜しは今日で早くも行き詰まっていた。この大学にあるいくつもの映画サークルで、部室の場所まで正確に分かる大きなサークルは、これまで訪ねた3つだけ。

他の小さなサークルになると、正確な数は把握できていない。そもそもどこで活動しているのかすら分からない状況。

「少し考えたんだが、君の探し人を見つける、さらにいい方法を思いついたんだ」

「どんな？」

「君が探してる連中って、綾園学院の卒業生なんだから？」

「そうらしいけど……」

「だからさ、綾園の卒業アルバムを調べるんだよ。それなら住所だってバッチリ載ってるだろう」

「……あなた、天才」

「はっはっは。もっと誉めて」

「それじゃ、さっそくその友達を紹介して」

「友達？」

「あなたの友達に、綾園の卒業生がいるんでしょ？」

「んー。澄空や浜咲なら知り合いだらけなんだけどなあ。残念ながら綾園にはいないなあ」

「じゃあどうやって卒業アルバムを手に入れるのよ！」

「そこはさ、うまいこと綾園の図書室に潜り込むんだよ」

「潜り込む……って、どうやって？」

「そんなのいくつでも方法はある」

「なんだか探偵小説みたいなノリになってきたね」

「だから、オレは福徳信……探偵だって」

「はいはい。偉いね、よしよし」

「適当に受け流しつつ、信くんの提案を吟味してみる。確かにその方法が一番手取り早いかもしれない」

「ふむ、綾園……明日にでも行ってみるかな」

このときの私は、まだ知らなかった。綾園学院には、雄介くんの妹が今も通っているという事実を、まだ……。

To be continued——

ゲームクリアが

# 緊急告知

Memories Off 5 Promise & Wish

## 単行本化決定

原稿量は、連載時の2倍以上。公式プレストーリー「Memories Off #5 ~Promise & Wish~」の単行本化が決定。麻尋&雄介の出会いと死の真相、タレント時代のあすかの生活など、気になるシーンが満載。ゲーム本編ではあまり触れられなかったさまざまな出来事の真相も語られているぞ。

描き下ろし小説「黄昏色の夢」収録！

連載ストーリーを大幅加筆修正

ゲームでは語られなかった真相も明らかに

# 11月25日 発売予定

●発行：メディアワークス ●価格未定

# 終わりにじゃない

## あすかと麻尋がついに対決!? 次号いよいよ最終回!!

わたしも、泣きたい気分なのについ苦笑しちゃった。

「あはは、濡れネズミですね」

「でもまあ、これもある意味、ばあちゃんの言いつけを守ったってことになるのかもな」

わたしたちはお互いに顔を見合わせた。そしてふたり同時につぶやく。

【水も滴るいい男】

言うと同時に、自然と笑いがこみ上げてきて、バカみたいに笑い合った。

だから、もういいや。

今日は告白できなかったけど……

相合い傘で告白大作戦その3とその4も実行できずに終わっちゃったけど……

別に焦る必要なんてないよね。これからは、ハル先輩とこうして思い出を作っていく時間はいくらかもあるんだから。

と、ハル先輩はわたしに傘を預けると、自分から雨の中に進み出した。

「ハル先輩、濡れちゃうよ」

ハル先輩はわたしの言葉を聞き流して、両手を広げ気持ちよさそうに雨を浴びている。

子どもみたいに楽しそうなの姿を見てると、この雨も実はあったかいんじゃないかなって思えてくるから不思議。

「前に見た古い映画に、こんな風に雨の中で踊るシーンがあったな……」

そう言うと、ハル先輩は急に表情を曇らせた。

PS4 PSVITA

葦鹿島明神

# ラストメモリーズ開幕

これは、かけがえのない——  
——そして負けない、想い——



## メモリーズオフ イノサンフィーユ Memories Off - Innocent Fille -

PlayStation®4 / PlayStation®Vita / PC (Steam® / DMM)

限定版内容

※サントラCD「メモリーズオフ-Innocent Fille-Sound Collection」 ※「メモリーズオフ-Innocent Fille-設定資料集」

メモリーズオフシリーズ最新作 2018年3月29日発売予定 <http://memoriesoff.jp/>

PlayStation®4/PlayStation®Vita 通常版7,800円(税別) / 限定版9,800円(税別) / DL版7,000円(税別)  
CERO 準B 15禁

すべてののはじまりは、ただ君を護るために

### Story

秋も深まる10月。気付けば、高校生活も半分を過ぎていた。

札幌海陵高校へ通う累は、いつも「ここではない、どこか遠くへ行きたい」と願っていた。そしてその願いは、幼馴染にして親友の莉一の支えもあり、ついに叶う事となる。

『特待生特別国内交換留学制度』通称、トクトク制度に参加が認められ、姉妹校である湘南海陵高校へと一時的に転入することになったのだ。

「これは、新しい一歩だ」

湘南海陵高校には、莉一とその妹である柚莉もいる。

親友たちとの7年ぶりの再会と新しい場所への期待は、あまり感情を面に出さない累にも笑顔をもたらしていた。

まだ見ぬ、海辺の街。観光名所としても知られる湘南での生活は、そして訪れる新たな出合いは、累の心にどのような道を示してくれるのだろうか。

——勇気を出して踏み出した、ささやかな一歩。

それは、自分一人では容易く掴む事の出来ない、未来へと向かっていく。



### Character

メインキャラクターデザイン: 平つくね



メモリーズオフシリーズ7年ぶりの最新作! 冬の湘南を舞台に「最後のメモリーズ」が今、始まる。

※画面は開発中のものです



さらに

シリーズからゲストが多数登場!



2018.3.29 ON SALE  
メモリーズオフ-Innocent Fille-(イノサンフィーユ)  
ジャンル:恋愛アドベンチャーゲーム 機種:PlayStation 4,PlayStation Vita,PC(Steam®/DMM)  
通常版7,800円(税別)、限定版9,800円(税別)、DL版7,000円(税別)